

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年11月9日
【四半期会計期間】	第12期第2四半期（自平成29年7月1日至平成29年9月30日）
【会社名】	フリー株式会社
【英訳名】	FURYU CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 田坂 吉朗
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区鶯谷町2番3号
【電話番号】	03-5728-1761（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部 財務経理部 部長 笹沼 理成
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区鶯谷町2番3号
【電話番号】	03-5728-1761（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部 財務経理部 部長 笹沼 理成
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第11期 第2四半期 連結累計期間	第12期 第2四半期 連結累計期間	第11期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成29年4月1日 至平成29年9月30日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (千円)	12,036,338	12,033,470	24,890,962
経常利益 (千円)	2,466,244	1,349,750	3,921,257
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	1,689,865	909,192	2,798,146
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,625,722	889,004	2,916,199
純資産額 (千円)	14,799,362	16,129,969	16,089,839
総資産額 (千円)	20,626,427	21,707,218	22,324,730
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	59.72	32.13	98.89
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	71.7	74.3	72.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,415,461	1,291,468	3,769,986
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	357,507	812,088	1,550,675
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	710,138	851,021	711,352
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	10,544,414	11,319,528	11,693,790

回次	第11期 第2四半期 連結会計期間	第12期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日	自平成29年7月1日 至平成29年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	29.80	14.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は、平成29年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

## 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日～平成29年9月30日）におけるわが国の経済は、政府の各種政策効果の下支えもあり一部緩やかな回復傾向がみられるものの、米国政権の政策動向や、世界的な地政学的リスクの高まり等の懸念により、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境において当社グループは、企業理念「人々のこころを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する!」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、IP（知的財産）を軸としたキャラクター価値の最大化に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高12,033百万円（前年同期比100.0%）、営業利益1,353百万円（前年同期比54.8%）、経常利益1,349百万円（前年同期比54.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は909百万円（前年同期比53.8%）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### （プリントシール事業）

プリントシール事業におきましては、プリントシール機の新機種「SALON AIR（サロンエア）」を発売したものの、プリントシール機全体としてのプレイ回数は減少し、シール紙売上は前年同期を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,174百万円（前年同期比98.4%）、営業利益は609百万円（前年同期比69.7%）となりました。

#### （コンテンツ・メディア事業）

コンテンツ・メディア事業におきましては、プリントシール画像取得・閲覧サービス「ピクトリンク」の入会促進施策と継続利用促進施策に取り組み、平成29年9月末における有料会員数は162万人となりました。

一方、WEBマガジンやメール広告「プリアドメール」、カラーコンタクトレンズの販売等は堅調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,186百万円（前年同期比107.3%）、営業利益は2,108百万円（前年同期比98.0%）となりました。

#### （キャラクタ・マーチャンダイジング事業）

キャラクタ・マーチャンダイジング事業におきましては、多数の新規キャラクター版権の獲得とその商品化を行いましたが、前期主力商品に匹敵するような売上の獲得に至らず、前年同期の売上を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,414百万円（前年同期比88.5%）、営業利益は108百万円（前年同期比27.7%）となりました。

#### （ゲーム事業）

ゲーム事業におきましては、ニンテンドー3DS™向けオリジナルタイトル「アライアンス・アライブ」の発売（平成29年6月）や、スマートフォン向けオリジナルゲーム「恋愛幕末カレシ～時の彼方で花咲く恋～」の配信開始（平成29年3月）等により、売上を伸ばしました。一方、第3四半期以降に発売または配信開始するゲームへの開発投資の影響もあり、前年同期に比べ営業損失は拡大いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,022百万円（前年同期比126.0%）、営業損失は628百万円（前年同期は営業損失347百万円）となりました。

(その他)

その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、書籍の出版事業等を行っております。当第2四半期連結累計期間の売上高は235百万円(前年同期比66.9%)、営業利益は41百万円(前年同期比40.8%)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産が21,707百万円、負債が5,577百万円、純資産は16,129百万円となりました。また、自己資本比率は74.3%となりました。

(資産)

資産につきましては、前連結会計年度末に比べ617百万円減少し、21,707百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金の減少(前連結会計年度末比1,035百万円の減少)、たな卸資産の増加(前連結会計年度末比614百万円の増加)によるものであります。

(負債)

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ657百万円減少し、5,577百万円となりました。これは主に流動負債その他(未払金)の減少(前連結会計年度末比429百万円の減少)、流動負債その他(リース債務)の減少(前連結会計年度末比303百万円の減少)によるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ40百万円増加し、16,129百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加(前連結会計年度末比60百万円の増加)によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は、営業活動による収入が投資活動及び財務活動による支出を下回ったため、前連結会計年度末に比べ374百万円減少し11,319百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動においては、税金等調整前四半期純利益を1,345百万円、減価償却費を910百万円計上しました。また、売上債権が828百万円減少し、法人税等の支払額が487百万円となりました。その結果、営業活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間(1,415百万円の収入)に比べ123百万円収入が減少し1,291百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動においては、有形固定資産の取得による支出が644百万円、無形固定資産の取得による支出が136百万円となりました。その結果、投資活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間(357百万円の支出)に比べ454百万円支出が増加し812百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動においては、セール・アンド・リースバックによる収入が792百万円、リース債務の返済による支出が795百万円、配当金の支払額が848百万円となりました。その結果、財務活動によるキャッシュ・フローは、前第2四半期連結累計期間(710百万円の支出)に比べ140百万円支出が増加し851百万円の支出となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、680百万円であります。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	104,400,000
計	104,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	28,296,000	28,296,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	28,296,000	28,296,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】  
 該当事項はありません。

( 4 ) 【ライツプランの内容】  
 該当事項はありません。

( 5 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年7月1日～ 平成29年9月30日	-	28,296,000	-	1,639,216	-	1,639,216

( 6 ) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
田坂 吉朗	京都府京都市北区	5,130,000	18.13
吉田 真人	神奈川県横浜市都筑区	1,620,000	5.73
新本 祐一	東京都港区	1,620,000	5.73
三嶋 隆	神奈川県横浜市青葉区	1,620,000	5.73
フリュー社員持株会	東京都渋谷区鶯谷町2 - 3 COMSビル	1,494,200	5.28
芝山 貴史	神奈川県茅ヶ崎市	1,440,000	5.09
稲毛 勝行	京都府京都市西京区	1,080,000	3.82
中村 真司	京都府京都市右京区	1,080,000	3.82
鬼頭 金正	愛知県一宮市	1,080,000	3.82
溝上 耕史	東京都目黒区	1,080,000	3.82
計	-	17,244,200	60.94

(7) 【議決権の状況】  
 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,293,200	282,932	-
単元未満株式	普通株式 2,700	-	-
発行済株式総数	28,296,000	-	-
総株主の議決権	-	282,932	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式92株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
フリュー株式会社	東京都渋谷区鶯谷 町2番3号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	11,693,790	11,319,528
受取手形及び売掛金	3,995,327	2,960,118
電子記録債権	600,364	806,877
たな卸資産	1,062,003	1,676,289
その他	1,178,728	1,247,914
貸倒引当金	13,531	6,566
<b>流動資産合計</b>	<b>18,516,683</b>	<b>18,004,162</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	2,465,650	2,314,100
無形固定資産	230,496	241,597
<b>投資その他の資産</b>		
その他	1,125,047	1,160,262
貸倒引当金	13,147	12,906
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>1,111,900</b>	<b>1,147,356</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>3,808,047</b>	<b>3,703,055</b>
<b>資産合計</b>	<b>22,324,730</b>	<b>21,707,218</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	787,050	828,199
電子記録債務	1,481,015	1,553,963
未払法人税等	545,252	476,453
賞与引当金	5,945	5,491
返品調整引当金	142,092	128,210
その他	2,584,160	1,850,352
流動負債合計	5,545,517	4,842,670
固定負債		
退職給付に係る負債	676,293	721,499
その他	13,079	13,079
固定負債合計	689,373	734,578
負債合計	6,234,890	5,577,248
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,639,216	1,639,216
利益剰余金	12,837,020	12,897,337
自己株式	178	178
株主資本合計	16,115,273	16,175,590
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	52,280	29,636
退職給付に係る調整累計額	77,714	75,258
その他の包括利益累計額合計	25,433	45,621
純資産合計	16,089,839	16,129,969
負債純資産合計	22,324,730	21,707,218

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

( 単位 : 千円 )

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 9 月30日)
売上高	12,036,338	12,033,470
売上原価	4,842,969	5,195,173
売上総利益	7,193,368	6,838,297
販売費及び一般管理費	4,722,860	5,484,667
営業利益	2,470,508	1,353,630
営業外収益		
持分法による投資利益	4,481	-
投資事業組合運用益	-	7,334
保険解約返戻金	1,443	-
償却債権取立益	39	7
その他	686	595
営業外収益合計	6,650	7,937
営業外費用		
支払利息	171	584
為替差損	3,025	7,828
投資事業組合運用損	7,649	-
持分法による投資損失	-	3,402
その他	67	1
営業外費用合計	10,913	11,817
経常利益	2,466,244	1,349,750
特別損失		
固定資産除売却損	4,607	4,302
特別損失合計	4,607	4,302
税金等調整前四半期純利益	2,461,636	1,345,448
法人税等	771,771	436,256
四半期純利益	1,689,865	909,192
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,689,865	909,192

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
四半期純利益	1,689,865	909,192
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	66,007	22,644
退職給付に係る調整額	1,865	2,456
その他の包括利益合計	64,142	20,188
四半期包括利益	1,625,722	889,004
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,625,722	889,004
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,461,636	1,345,448
減価償却費	771,521	910,959
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,815	7,206
返品調整引当金の増減額(は減少)	7,143	13,881
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	31,782	45,205
賞与引当金の増減額(は減少)	652	454
持分法による投資損益(は益)	4,481	3,402
支払利息	171	584
固定資産除売却損益(は益)	4,607	4,302
売上債権の増減額(は増加)	288,672	828,695
たな卸資産の増減額(は増加)	626,427	614,286
仕入債務の増減額(は減少)	185,525	114,097
その他	651,997	837,287
小計	2,080,350	1,779,578
利息及び配当金の受取額	38	40
利息の支払額	171	584
法人税等の支払額	664,755	487,566
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,415,461	1,291,468
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	503,957	644,509
有形固定資産の売却による収入	1,025	-
無形固定資産の取得による支出	178,690	136,288
保険積立金の解約による収入	332,326	-
その他	8,212	31,291
投資活動によるキャッシュ・フロー	357,507	812,088
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
セール・アンド・リースバックによる収入	699,820	792,887
リース債務の返済による支出	702,380	795,034
自己株式の取得による支出	178	-
配当金の支払額	707,400	848,874
財務活動によるキャッシュ・フロー	710,138	851,021
現金及び現金同等物に係る換算差額	252	2,619
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	347,562	374,261
現金及び現金同等物の期首残高	10,196,851	11,693,790
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,544,414	11,319,528

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
商品及び製品	891,630千円	1,059,028千円
仕掛品	17,632	17,640
原材料及び貯蔵品	152,740	599,621

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
給与及び賞与	1,284,690千円	1,362,111千円
退職給付費用	67,274	78,809
貸倒引当金繰入額	1,815	6,901

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	10,544,414千円	11,319,528千円
現金及び現金同等物	10,544,414	11,319,528

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月13日 取締役会	普通株式	707,400	75	平成28年3月31日	平成28年6月10日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年5月12日 取締役会	普通株式	848,874	30	平成29年3月31日	平成29年6月9日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	プリントシール 事業	コンテンツ・メ ディア事業	キャラクタ・マ ーチャンダイジ ング事業	ゲーム事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	4,243,101	3,900,924	2,728,538	810,961	11,683,525
セグメント間の内部売上高又 は振替高	-	-	-	-	-
計	4,243,101	3,900,924	2,728,538	810,961	11,683,525
セグメント利益又は損失( )	875,390	2,151,659	391,233	347,345	3,070,936

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	352,812	12,036,338	-	12,036,338
セグメント間の内部売上高又 は振替高	1,367	1,367	1,367	-
計	354,180	12,037,706	1,367	12,036,338
セグメント利益又は損失( )	100,916	3,171,853	701,345	2,470,508

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、書籍の出版事業等を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額 701,345千円には、全社費用 705,245千円、セグメント間取引3,900千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	プリントシール 事業	コンテンツ・メ ディア事業	キャラクタ・マ ーチャンダイジ ング事業	ゲーム事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	4,174,996	4,186,450	2,414,105	1,022,039	11,797,591
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,174,996	4,186,450	2,414,105	1,022,039	11,797,591
セグメント利益又は損失( )	609,724	2,108,268	108,564	628,142	2,198,415

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	235,878	12,033,470	-	12,033,470
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	235,878	12,033,470	-	12,033,470
セグメント利益又は損失( )	41,207	2,239,622	885,992	1,353,630

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、書籍の出版事業等を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額 885,992千円には、全社費用 889,892千円、セグメント間取引3,900千円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	59円72銭	32円13銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,689,865	909,192
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	1,689,865	909,192
普通株式の期中平均株式数(株)	28,295,933	28,295,808

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 当社は、平成29年3月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月8日

フリー株式会社  
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 芝田 雅也 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 古賀 祐一郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフリー株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年7月1日から平成29年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フリー株式会社及び連結子会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。